

しりべし経済レポート

Vol.120

(令和8年8月発行)



財務省 北海道財務局 小樽出張所



<https://lfb.mof.go.jp/hokkaido/otaru/index.html>

希望ある未来へ 地域と歩む 北海道財務局



北海道財務局公式
公式マスコットキャラクター
「きたまるん」

目 次

総 括 判 断	・ ・ ・ ・ ・	1
個 人 消 費	・ ・ ・ ・ ・	2
観 光	・ ・ ・ ・ ・	4
住 宅 建 設	・ ・ ・ ・ ・	5
公 共 工 事	・ ・ ・ ・ ・	6
生 産	・ ・ ・ ・ ・	6
雇 用	・ ・ ・ ・ ・	7

【 参 考 】

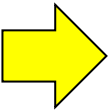
金 融	・ ・ ・ ・ ・	8
企 業 倒 産	・ ・ ・ ・ ・	9

=利用に当たっての注意=

- ・ 数値は、原則として単位未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計や、表中の前年比と各数値から算出した前年比が一致しない場合がある。
- ・ 本指標は、本レポート作成時点で公表されているデータに基づき作成している。
- ・ 一部指標については、従来使用していたデータの提供終了等に伴い、本期よりデータソースを変更している。このため、過去の公表値とは集計対象や集計方法が異なる場合があり、時系列比較を行う際は留意が必要である。
- ・ 本レポート公表後において、データ提供機関による数値の修正が行われた場合であっても、原則として当該修正は反映していない。

1. 【令和8年4月～6月期 総括判断】

管内経済は、持ち直している

	前回（R8.1～3月期）	今回（R8.4～6月期）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

2. 【各項目の判断】

	前回（R8.1～3月期）	今回（R8.4～6月期）	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
観光	回復しつつある	緩やかに回復している	
住宅建設	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
公共工事	前年を上回る	前年を上回る	
生産	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

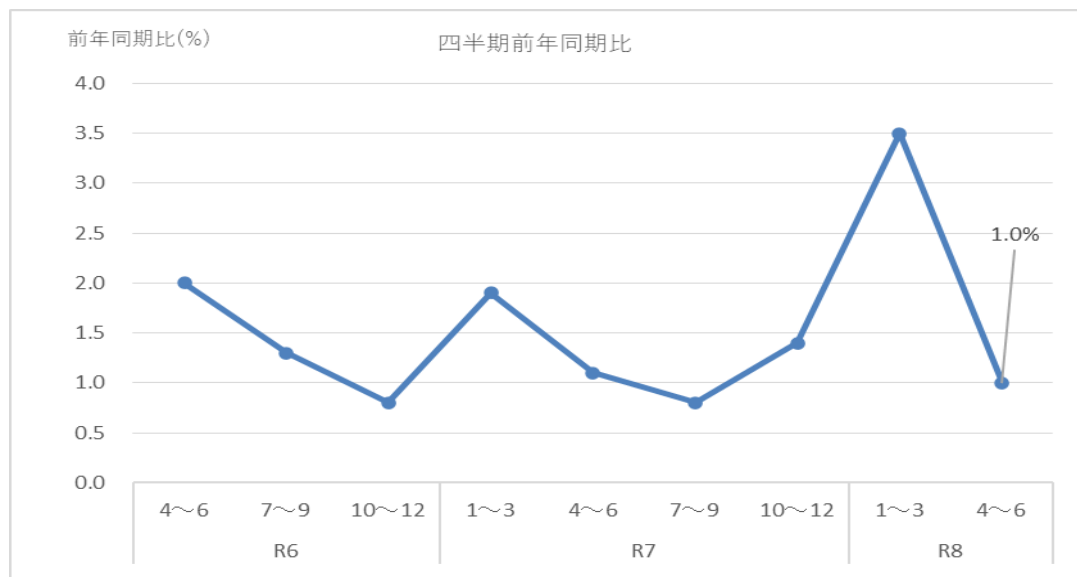
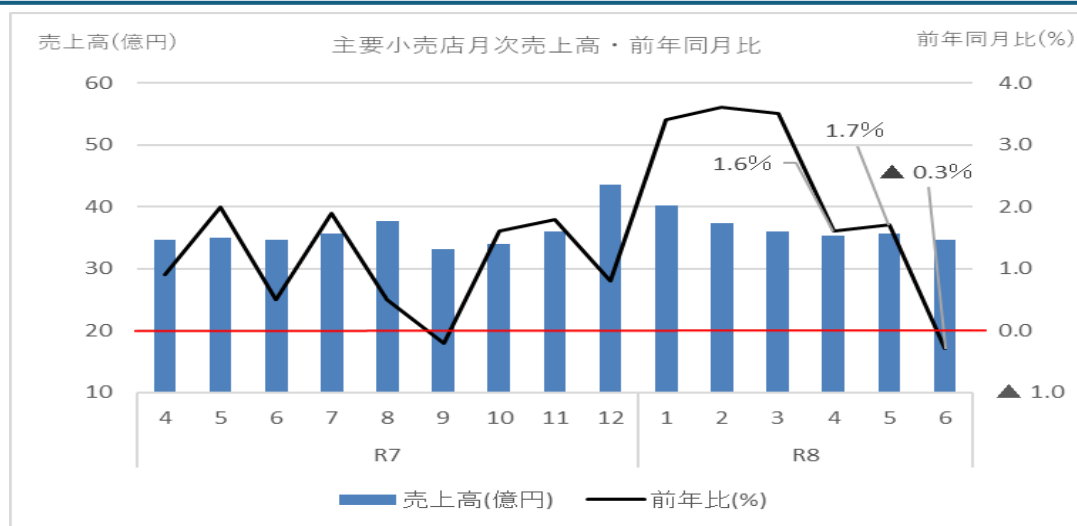
【個人消費】

持ち直しつつある

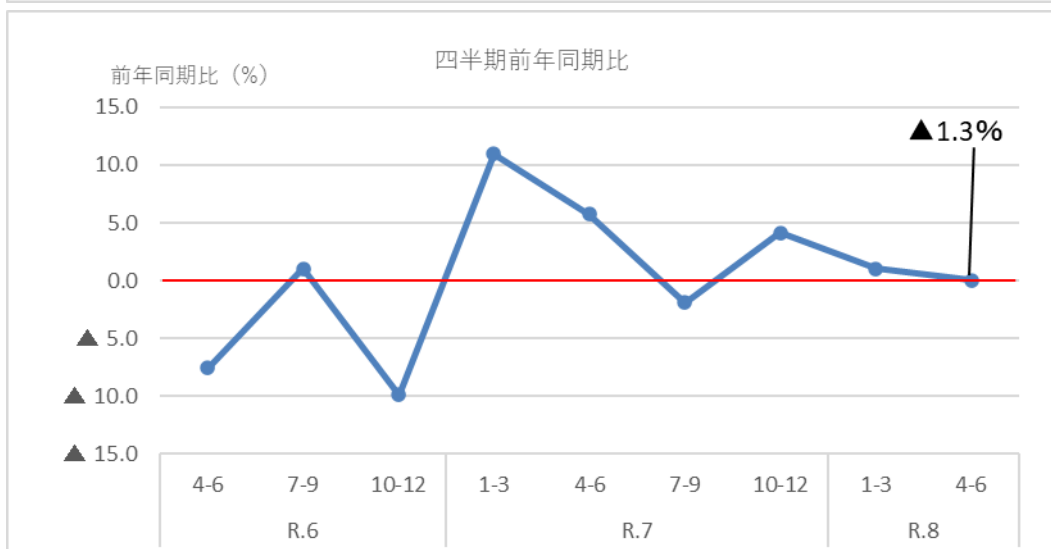
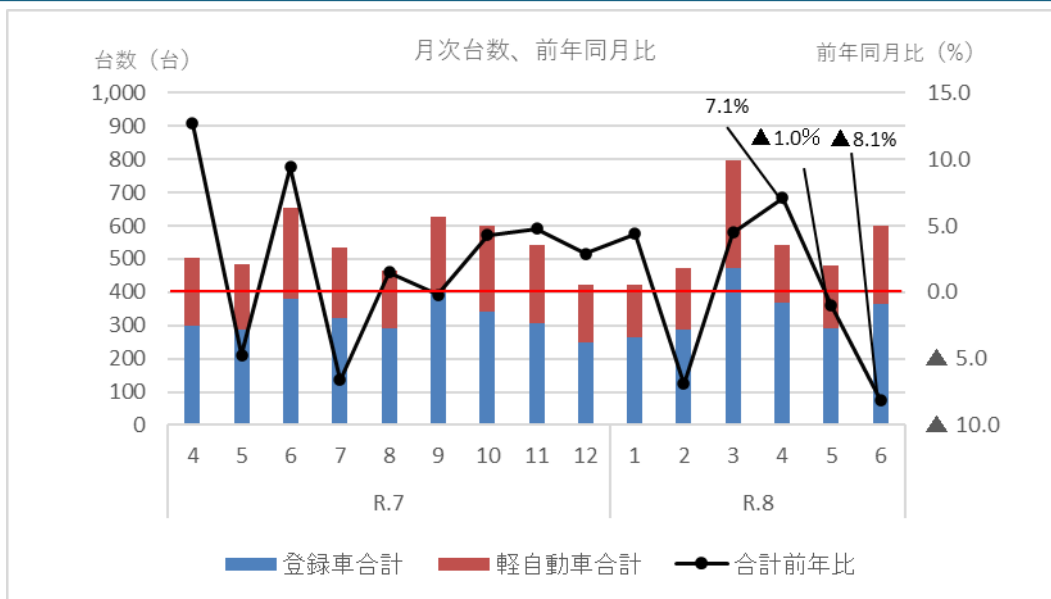
主要小売店売上高は、物価高による節約志向が続く中であっても、インバウンド需要やイベント需要等に支えられ、前年を上回って推移している。

新車登録・届出台数は、乗用車需要がおおむね堅調に推移しているものの、軽自動車の販売が弱く、全体では前年を下回っている。

主要小売店売上高の推移



(注1)主要小売店売上高については、令和8年4月に集計対象店舗を変更したため、過去に遡って再集計している。
(注2)前年同月比及び四半期前年同期比については、変更後の対象店舗ベースで前年分を再集計した上で算出している。
(資料)北海道財務局小樽出張所



（資料）北海道財務局小樽出張所

個人消費に関する生の声

- ・消費者は物価高騰を受け入れているが、節約志向が強まっており、ポイント還元日や値引き販売に来店が集中する傾向がみられる。（小売店）
- ・外国人観光客については物価高への意識は薄く、嗜好品を中心に購買行動に大きな変化はない。来店客数の増加がそのまま消費増加につながっている。（小売店）
- ・消費マインドは季節やイベントに左右され、催事やイベント時には支出が増える一方、平常時は節約傾向が強く客単価は低下している。（小売店）
- ・顧客単価が増加しているのは、小樽市の省エネ家電購入費支援キャンペーンの影響で単価が高い商品が売れたためである。（小売店）
- ・車両価格やローン金利が上昇しているものの、金額を抑えて安い車を買うというよりも、乗りたい車種や性能を優先して車を選んでいられる。（乗用車販売店）
- ・中東情勢によるオイル不足等の影響はなく、登録・受注台数への影響もみられない。（乗用車販売店）
- ・車両価格上昇への理解が進み、残価設定ローンの利用が増加している。価格よりも使い勝手などの性能面を重視する傾向がみられる。（乗用車販売店）
- ・燃料価格の上昇などを背景に高齢者を中心とした免許返納や車両処分の動きがみられる。（乗用車販売店）

【観光】

緩やかに回復している

観光来訪者数は、後志管内、ニセコエリアともに前年を上回った。



(資料) デジタル観光統計オープンデータ (<https://www.nihon-kankou.or.jp/home/jigyuu/research/d-toukei/>) を加工して作成。

(令和8年8月作成)

(注) 従来使用していたデータの提供終了等に伴い、本期よりデータソースをデジタル観光統計オープンデータに変更している。

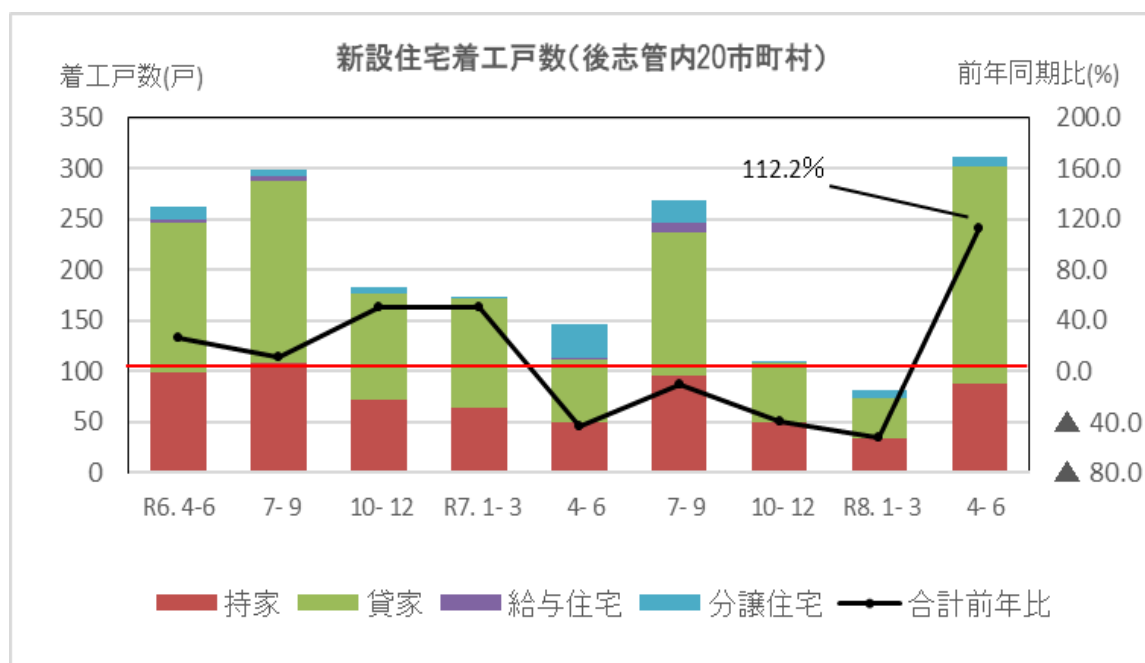
観光に関する生の声

- ・ ゴールデンウィーク期間中は国内客と海外客の比率が概ね半々で推移したが、ゴールデンウィーク終了後も海外からの来館者が継続して来訪している状況が見受けられた。(観光施設)
- ・ 引き続き若者の友人同士や家族などの小グループが多いが、修学旅行客や社員旅行もときどき来っていた。国内客の旅行動向に特に目立った変化はなく、旅行中の消費はそれなりにしているが、海外客は円安により購買意欲が旺盛である。(観光施設)
- ・ 団体客については前年と比較すると概ね減少し、特に6月が大きく減少した。背景の一つには、料金が安いなどの理由からツアーより個人で動く方が良いことが考えられる。(宿泊施設)
- ・ 道内・道外客は、引き続きの物価高騰により日帰り客がメインとなったと推測している。海外客は、昨年度と比べるとスキー場の営業期間が延びたため大幅に増加している。(公的機関)
- ・ 道の駅利用者数及び町の宿泊者数については、昨年度よりも海外客が多い印象にある。(公的機関)

【住宅建設】

一進一退の状況にある

新設住宅着工戸数は、給与住宅と分譲住宅では前年を下回っているものの、持家と貸家では前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。



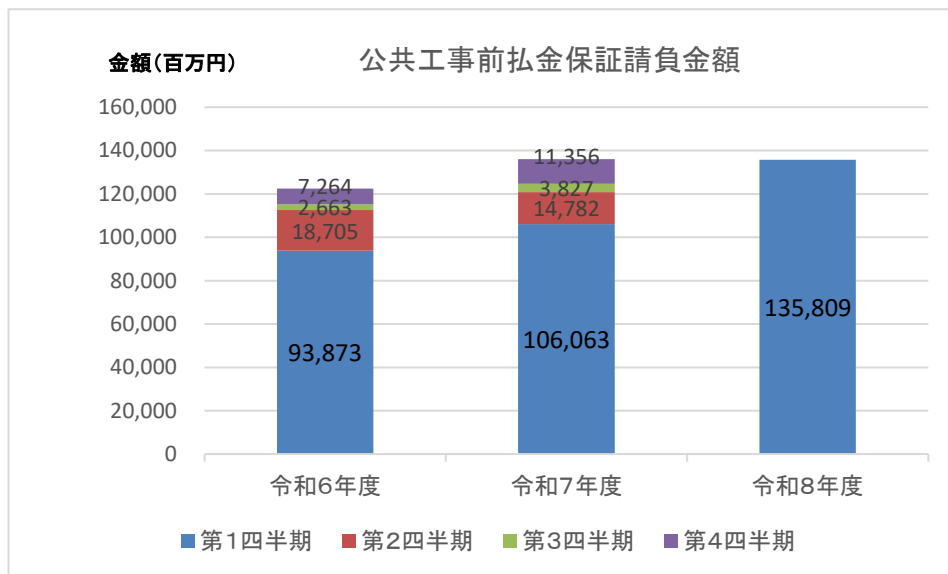
住宅建設に関する生の声

- ・資材高騰による建築費上昇への対応として、従来の注文住宅中心から建売住宅の比率を高める事業展開に移行している。また、国の補助金制度の後押しもあり、脱炭素やZEHへの関心が高まっている。（建設会社）
- ・前年同期の戸数については建築基準法改正により4月1日から着工するものに対して求められることが多くなっていたため、それ以前に着工を進める物件が多く、例年よりも戸数が減っていた。それに比べ、今年については申請方法も浸透し例年通りの戸数に戻ったと思われる。（公的機関）
- ・原油価格や資材価格の上昇が続いており、資材全般で前年同期比1～2割程度の値上がりがみられる。また、納入遅延による工期への影響を懸念している。（建設会社）
- ・石油・ナフサを原料とする建築資材（断熱材や設備機器等）の国内の供給不足により、工事の進捗に遅れが生じている物件があると聞いている。（公的機関）

【公共工事】

前年を上回る

公共工事前払金保証請負金額は、前年を上回っている。



(資料) 北海道建設業信用保証㈱

※四半期の数字は、端数の関係で単月3ヶ月の累計と一致しない。

【生産】

一進一退の状況にある

生コン出荷状況は、官需、民需ともに前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。

水産加工稼働状況は、原材料価格等の上昇分を販売価格へ十分転嫁できていないほか、一部魚種では原料不足もみられることから、引き続き低調となっている。

金属加工は、住宅関連需要の弱さがみられる一方、産業・インフラ関連需要が下支えしたことにより、安定した操業となっている。

機械生産は、自動車関連の受注回復により、安定した操業となっている。

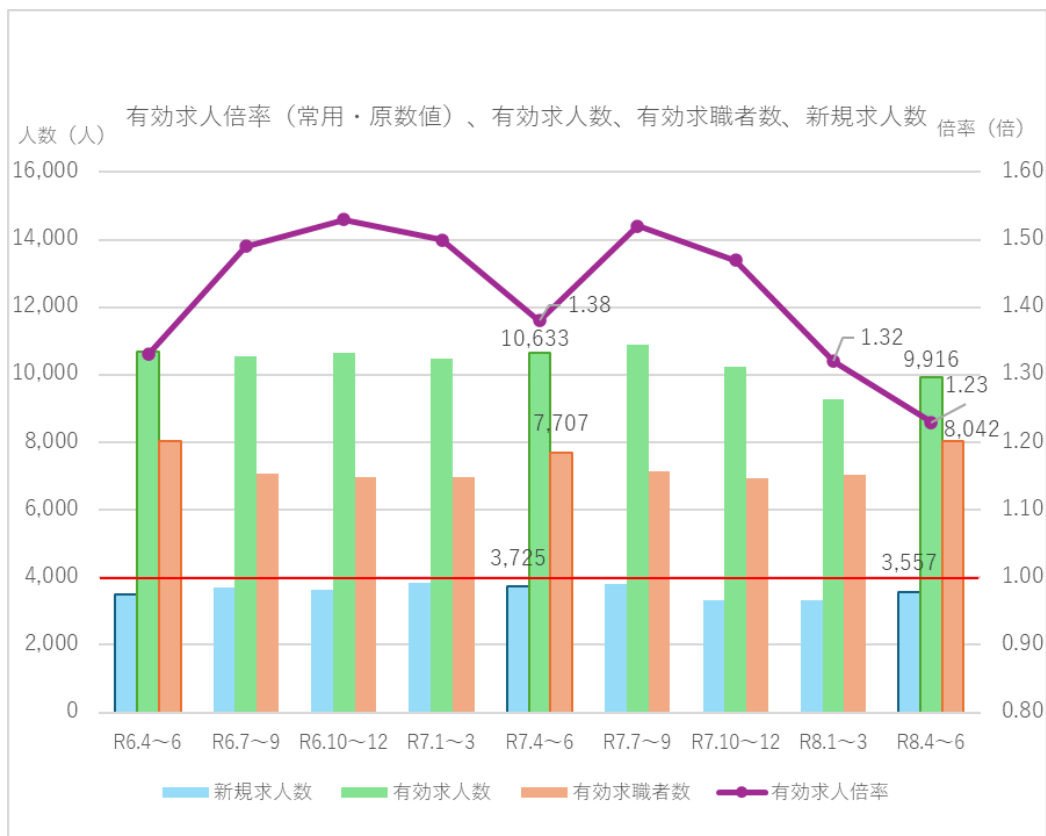
プラスチック製品は、中東情勢の影響による一時的な稼働率低下から回復し、足下では安定した操業となっている。

ゴム製品は、半導体や医療関連による受注があることから、安定した操業となっている。

【雇用】

緩やかに持ち直している

有効求人倍率及び有効求人数は前年を下回っている一方で、有効求職者数は前年を上回っている。



（資料）小樽・岩内公共職業安定所
※本指標は常用と常用パートの合計である。

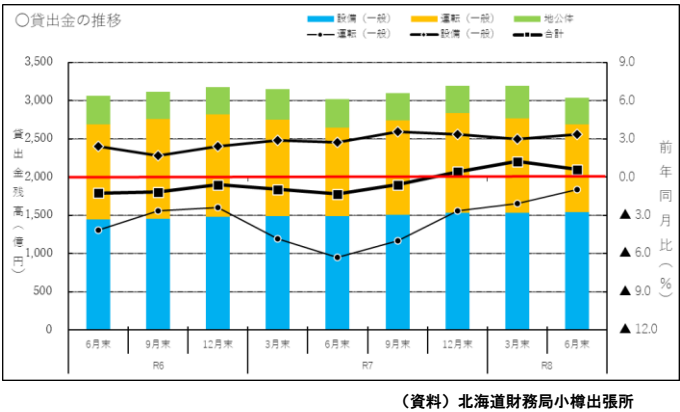
雇用に関する生の声

- ・燃料費、人件費の高騰や物価高といった影響は大きく、いつまで続くのかといった見通しが立たないため、雇用の抑制傾向がみられている。（公的機関）
- ・医療や福祉、建設業では引続き人材確保が課題となっており、有効求人倍率も高水準で推移するなど、企業の人手不足感は依然として強い状況にある。（公的機関）
- ・ホームページの作成・更新、SNS（インスタグラム等）の活用により、求職者に対して職場情報をアピールしている。（製造業）
- ・年間休日120日以上への見直しや、スポーツ観戦の年間シート購入といった福利厚生強化にも取り組んでいる。（小売店）

参考

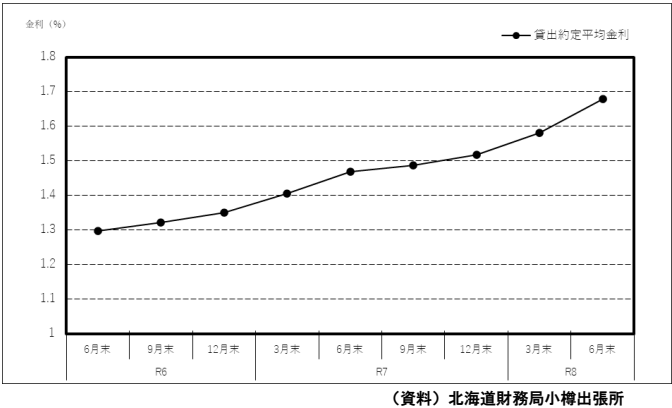
【金融】

貸出金



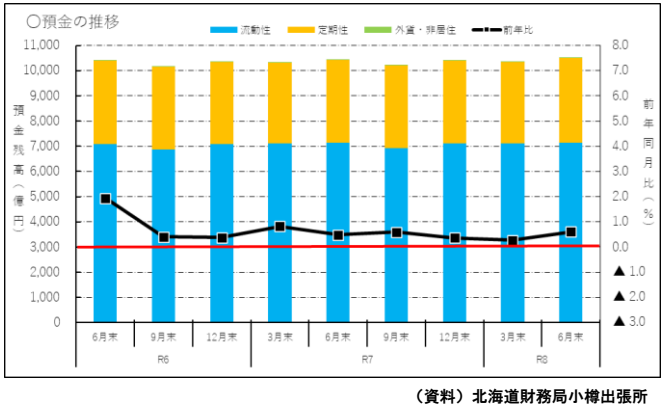
	金額(百万円)				
	設備(一般)	運転(一般)	地公体	合計	
6年 3月末	144,881	132,088	41,192	318,161	▲ 1.6
7年 3月末	149,090	125,726	40,266	315,082	▲ 1.0
8年 3月末	153,550	123,089	42,315	318,954	1.2
7年 6月末	148,895	115,993	37,233	302,121	▲ 1.3
9月末	150,409	124,004	35,428	309,841	▲ 0.6
12月末	153,024	130,484	35,489	318,997	0.4
8年 3月末	153,550	123,089	42,315	318,954	1.2
6月末	153,921	114,866	35,166	303,953	0.6

貸出約定平均金利



	金利 (%)
6年 3月末	1.257
7年 3月末	1.406
8年 3月末	1.580
7年 6月末	1.469
9月末	1.488
12月末	1.517
8年 3月末	1.580
6月末	1.678

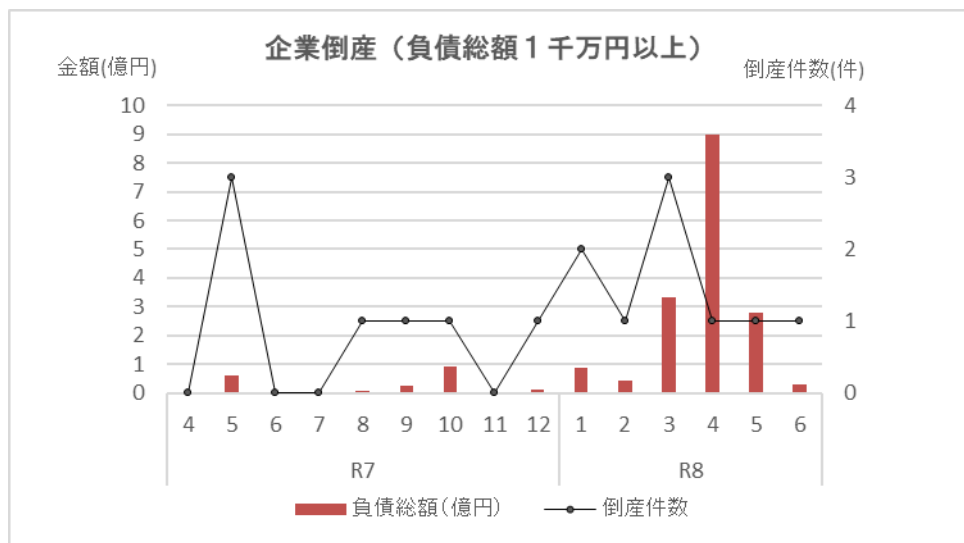
預金



	金額(百万円)				
	流動性	定期性	外貨・非居住	合計	
6年 3月末	693,703	328,964	492	1,023,159	2.8
7年 3月末	711,771	318,813	956	1,031,540	0.8
8年 3月末	712,657	321,081	663	1,034,401	0.3
7年 6月末	715,191	328,370	716	1,044,277	0.5
9月末	692,267	329,695	679	1,022,641	0.6
12月末	711,479	327,834	605	1,039,918	0.4
8年 3月末	712,657	321,081	663	1,034,401	0.3
6月末	715,068	334,732	914	1,050,714	0.6

(注1) 令和8年4月以降、公表内容を月次から四半期ごとへ変更している。
(注2) 貸出金の(一般)は法人及び個人向けの貸出である。
(注3) 統計対象業態は、ゆうちょ銀行を除く銀行、信用金庫である。

【企業倒産】



(資料) ㈱東京商工リサーチ

財務省 北海道財務局
小樽出張所 財務課

〒047-0007

小樽市港町5番2号 小樽地方合同庁舎

TEL 0134-23-4103

E-mail HKZJOTARUZAIMU@hk.lfb-mof.go.jp